

令和6年度 諸塚村立諸塚小学校

# 自己評価及び学校関係者評価書

学校関係者の総合評価をしたものになります。

作成日 令和7年3月4日（火）  
作成者 諸塚村立諸塚小学校

令和6年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【I 学力向上】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価	学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 学習指導法の工夫・改善 ○ 授業力の向上 ○ 少人数のよさを活かした個に応じた指導 ○ タブレットの効果的な活用	① 授業では自分の考えをまとめたり、友達と話し合ったりする学習場面が適切に設定されているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 98%	A	・保護者用アンケートに「わからない・評価できない」との回答があった。保護者は何をもとに評価してよいのか分からなかったのではないだろうか。	A	・アンケートの設問を評価しやすいように改善する。  ・授業改善の取組やプログラミング学習の様子、子どもの学習の様子等を積極的に発信する。
		保護者 94%				
		教師 100%				
	② 担任の先生は「分かった、できた!」と感じさせる授業を行っているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 100%	B			
		保護者 87%				
		教師 86%				
	③ 学習調査等の分析結果を生かした、授業づくりを行っているか。（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 98%	A			
		保護者 94%				
		教師 100%				
	④ タブレット端末の効果的な活用により、学習意欲の向上や情報活用能力の育成を図ることができているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 98%	A			
		保護者 93%				
		教師 100%				
(2) 学力向上 ○ 家庭との連携を図った家庭学習の定着  (3) 読む活動の推進 ○ 読書活動の推進	① 朝の時間の取組は、学力向上につながっているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 96%	B	・文学でないといけなのだろうか、電子書籍、伝記マンガの様なものも読書ととらえて評価してもよいのではないか。	B	・電子書籍などを保護者向けに紹介するなど、より一層の啓発を図る。
		保護者 /				
		教師 86%				
	② 宿題等家庭と連携した取組は、学力向上につながっているか。（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 94%	B			
		保護者 91%				
		教師 88%				
	③ 進んで本を読んでいるか（3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上）	児童 75%	B			
		保護者 73%				
		教師 100%				

※評価は【A：そう思う B：どちらかといえばそう思う C：どちらかといえばそう思わない D：思わない E：わからない】の5項目で自己評価しました。  
 (E (わからない・評価できない) の数値が大きいと、傾向を把握しにくいいため、E項目の数値を省いた母数で割合を出してあります。

学校評価書【Ⅱ 豊かな心の育成】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価	学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 豊かな心の育成 ○ 学級経営の充実による望ましい人間関係の醸成 ○ 教育活動全体を通じた人権意識を高める指導	① 学級は望ましい人間関係づくりができて いるか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 94%	A	・教師はしっかり指導していると考えている。 ・全体的な数値は高いが、保護者や子どもにもC評価があることは注意が必要である。	B	・引き続きアンケートや相談等で個別の対応を行うと共に全体に人権教育を進め、子どもの様子や変容をしっかりと見ていく。
		保護者 91%				
		教師 100%				
	② いじめのない楽しい学校生活が送れているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 94%	A			
		保護者 97%				
		教師 100%				
	③ 相手の気持ちに立つことの大切さや、互いに支え合うことの大切さ等の指導が行えているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 98%	A			
		保護者 89%				
		教師 100%				
(2) 基本的な生活習慣の定着 ○ 「早寝早起き朝ご飯」の生活リズムの確立 ○ あいさつ指導の徹底	① 生活のリズムが整っているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 87%	B	・何をしていた就寝が遅いのか、生活のリズムの課題は何なのかを把握する必要がある。 ・あいさつはできるが、場に合ったあいさつが大切。	B	・健康指導やメディアコントロールの指導で啓発していく。 ・時と場に応じたあいさつについて指導する。
		保護者 73%				
		教師 67%				
	② 場や相手に応じた心のこもった元気なあいさつができるか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 90%	B			
		保護者 81%				
		教師 80%				
(3) 環境美化の推進 ○ 無言清掃の徹底 ○ みどりの少年団活動の充実	① 無言清掃は徹底しているか（児童・教師アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 88%	B	・掃除に必要なことを話していることもあるのではないだろうか。 ・教師の見ていないところでも無言で掃除できる子どもを育成して欲しい。 ・みどりの少年団の活動状況を広報して欲しい。	A	・環境美化、清掃指導を継続して行う。
		保護者 				
		教師 91%				
	② みどりの少年団活動に取り組んでいるか（児童・教師アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童 94%	A			
		保護者 				
		教師 91%				

学校評価書【Ⅲ 健康・安全の維持向上】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価	学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 体力向上プランに基づいた運動の習慣化 ○ 新体力テストによる体力賞取得3割以上	① 運動に興味を持ち進んで運動や外遊びをするか(3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童 85%	B	・アンケートでは、3者とも80%以上の評価を得ているが、体力賞取得は3割に達していない。運動習慣＝体力賞とはならないのではないかと。子どもが自己記録の伸びを感じる事が、運動の習慣化につながると思う。 ・多様な遊びを通して、身体の機能と動作が順応できるとよい。 ・児童数減少により、バレー、野球等の部活動がなくなり、運動の機会は大きく減少している。 ・学校以外の家庭や地域で屋外で遊ぶ機会が少なくなっている。	A	・遊びの要素を積極的に取り入れた運動により、基礎体力を上げる取組を行う。 ・荒谷小学校と合同で協議するなど、村全体で体力向上に取り組む。
		保護者 84%				
		教師 100%				
	② 新体力テストの結果から、自己記録の伸びを実感できた児童が5割以上となることを目指す。(3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童 96%	A			
		保護者 90%				
		教師 100%				
(2) 望ましい食習慣の形成 ○ 食に関する意識の向上	① 朝ごはんをきちんと食べているか(児童・保護者アンケートのA・B評価90%以上)	児童 96%	A	・子どもは朝食は摂るが、親が期待する量ではない結果が親の86%? 給食では、嫌いなものも食べるが、家では食べない子が多いのではないかと。 ・家庭教育学級等で、栄養に関する学びの場があるとよいかもしれない。 ・朝ご飯は大切なのに、児童が100%になっていないので、保護者の方も気を付けてしっかり朝ご飯を食べさせて欲しい。 ・いずれは親元を離れて生活する子ども達。子ども達の食習慣に影響するのが親の考え方である。家庭での食事マナーや好き嫌いをなくすための努力が求められる。	B	・機をとらえて保護者に対しても食に関する学びの機会を設ける。
		保護者 86%				
		教師 100%				
	② 好き嫌いをせずマナーよく食べているか(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童 88%	B			
		保護者 81%				
		教師 89%				
(3) 健康の保持・増進 計画的な指導 ○ おし歯治療及び予防の取組の強化	① 歯磨き等、むし歯予防の習慣化ができていないか(児童・保護者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童 94%	B	・指標①、②ともA,B評価が100%近いことは評価できる。 ・歯の健康が及ぼす影響をより強調していけるとよい(村全体かも) ・自分で、歯みがきのできない子どももいるので、保護者がしっかり管理して欲しい。 ・むし歯予防治療に関しては、よい結果が出ていると思う。感染症の流行はやむを得ないが、手洗いうがい等の生活習慣の徹底に関する指導が必要。	B	・歯の治療は、現在治療率は68.8%であるが、最終的には、85%を達成する見込である。意識を継続できるよう啓発していく。
		保護者 89%				
		教師 88%				
	② 歯の治療率85%を目指す。(3者アンケートのA・B評価85%以上)	児童 98%	B			
		保護者 89%				
		教師 89%				

(4) 危機回避能力の育成 ○ 避難訓練等による安全意識 ・技能の向上	① 学校の内外でも、安全な行動について考え、危険なことをしないようにしているか。(3者アンケートのA・B評価85%以上)	児童	100%	A	A	・3者とも指標①、②がA,B評価が100%近いことは評価できる。 ・塚原地区との訓練の話があったが、勤めている方がほとんどで現状では難しい。 ・引き続き「自分の身は、自分で守る」意識を高めて欲しい。	A	・いつ、どのような災害が起こるか分からない状況の中で、どんな時でも子ども達が自分の命を守るための行動がとれるよう日々指導していく。
		保護者	100%					
		教師	100%					
	② 火事や地震、大雨などの時に、自分の命を守るためにどう行動すればよいか理解しているか。(児童・教師アンケートのA・B評価85%以上)	児童	98%	A				
		保護者	100%					
		教師	100%					

学校評価書【IV 家庭・地域との連携】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価	学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 地域素材の活用、人材との連携 ○ 教育活動への積極的な活用 ○ キャリア教育	① 地域素材の活用・地域人材との連携を図ることができているか。(3者アンケートのA・B評価90%以上)	児童	98%	A	A ・指標①、②、③において3者ともA,B評価が目標値を上回っていることは評価できる。 ・子どもはよくふるさと学習で学んだ内容を日常会話でも話す姿があり、活きた学習になっていると思う。 ・寿会との連携を取っている。いろいろな世代と交流が望ましいが、中堅は仕事で時間がとれない。 この委員の中に職域の方がいれば、まだよいアドバイス等ができたのではないかと思う。検討してはどうか。	A
		保護者	94%			
		教師	100%			
	② 学校は、児童に「ふるさと」のよさを感じる指導がなされているか(3者アンケートのA・B評価90%以上)	児童	98%	A		
		保護者	94%			
		教師	100%			
	③ キャリアパスポートの活用を図った取組により、自身の成長を感じさせているか(3者アンケートのA・B評価90%以上)	児童	93%	A		
		保護者	92%			
		教師	100%			
(2) 開かれた学校づくりの推進 ○ 定期的な情報発信 (ホームページ、学校便り) ○ 地域に貢献できる活動	① 学校便り(月1回)、学級通信(週1回以上)を発行し、学校ホームページを週に1回以上は更新する。(3者アンケートのA・B評価90%以上)	児童	85%	B	B ・HPの更新は、ほぼ毎週行われている。評価の低い保護者は見ていないのか、内容が満足しないのか、理解できないが、学校の取組は評価する。 ・情報の時代、うまく活かしていけるとよい。 ・私を含めて学校とのつながりが薄くなっている。 ・情報発信はなされているが、まだ、PR不足なのかも。	B
		保護者	76%			
		教師	100%			
	② 保護者・地域の方々や協働した取組による、コミュニティ・スクールの推進を図ることができているか(3者アンケートのA・B評価80%以上)	児童	91%	A		
		保護者	89%			
		教師	91%			

学校評価書【Ⅴ 特別支援教育の推進】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価		学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 特別支援教育体制の整備・運営 ○ 個の理解とそれに応じた指導の工夫	① 児童一人一人の個性と実態を理解し、それに応じた指導を行っているか（3者アンケートのA・B評価90%以上）	児童 93%	A	A	・指標において3者ともA,B評価が目標値を上回っていることは、評価できる。 ・専門の先生を入れているのでよいと思う。 ・個に応じた指導をされていることでその個人だけでなく、学級さらに学校全体によい結果をもたらす。今後も継続して欲しい。	A	・家庭や地域に向けた人権教育・特別支援教育の推進を積極的に行う。
		保護者 94%					
		教師 91%					
(2) 幼稚園や関係機関等との連携 ○ 定期的な情報交換	② 学校と幼稚園は、連携した指導を行っているか（保護者・教師アンケートのA・B評価90%以上）	児童 96%	B	B	・私的には連携がとれていると思う。 ・おおむね90%以上と捉えてよいのでは。 ・幼稚園との情報交換は定期的に行われているが、その情報が継続的に生かされているのか？生かされているかどうかは保護者の評価となっているのではないか。 ・イベントを通して相互の良好な関係性を感じる。	A	・幼稚園、中学校、行政などの機関と情報を共有し、得た情報は担任が変わっても生かしていく。
		保護者 88%					
		教師 100%					